講義名	対)研究演習Ⅱ		
講義コード	45421	授業形態	演習
担当教員	藤原　喜美子		
開講期・曜日・時限	通年 木曜日 ５時限		
備考			

ゼミ

学部ゼミ・学科ゼミ

学部

商学部・経済学部・人間社会学部

学科

マーケティング学科・経営学科

演習名

藤原喜美子ゼミナール（日本文化論）

概要説明

この研究演習の目的は、民俗（生活文化）から日本の文化の本質ともいうべきものを考えることにあります。

文化は、文字にみえる資料以外に、文字に記されていない民俗資料からも明らかにすることができます。家や地域に伝わる言い伝え（伝承）などが、この学問の大事な情報源なのです。例えば、住居・衣服・食事・生業・村構成・人生儀礼・年中行事・祭り・伝説・民間信仰などがテーマになります。私たちの日常生活は、地域ごとにそれぞれの特色が見られます。その地域の特色を知るためにも、フィールドワーク（聞き取り調査）による資料収集が必要となります。

そこで、研究演習では、日常生活で伝承されてきた各地域の情報（民俗）を収集・整理する方法を学びます。そして、得られた文化の特色を考察し、日本の文化の中に位置付けたいと思います。地域の情報（民俗）は多種多様であるため、それらの資料をいかに整理していくかが問題です。そのために、口頭発表とその質疑応答を通して、日本の生活文化史（民俗学）への理解と検討する方法を、ともに学んでいきたいと思います。

研究演習Ⅱでは、前期は『読み上手書き上手』、後期は『奥の細道』をテキストとして利用し、個別の発表や質疑応答を行いたいと思っています。また、前期と後期を通して、新聞記事を活用しながら、自らの考えをまとめる練習を行います。

学位

修士（日本史学）

教員よりの要望

・積極的な姿勢で取り組むこと。現地見学（フィールドワーク）などを行うことがありますので、その時には必ず参加してください。

・日常生活（民俗）に対して、大いに興味を持ってくれることを期待します。日常生活には、日本の文化を語る多くの資料が満ちあふれています。身近な事柄に対して、何事にも強い関心や疑問を持ってください。

教員英字氏名

Fujiwara Kimiko

研究室

研究棟Ⅱ　2711

最終学歴

神戸女子大学大学院文学研究科日本史学専攻 博士後期課程単位取得満期退学

主な研究活動・社会活動・研究業績

〔社会活動〕大阪狭山市文化財保護審議会委員(民俗)、加古川市文化財保護審議会委員（民俗）、播磨町文化財審議委員(民俗)

〔研究業績〕
◯著書『オニを迎え祭る人びと―民俗芸能とムラ―』（御影史学研究会民俗学叢書17、岩田書院、2006年10月刊）
◯論文「五條市近内町の高野参りと六斎念仏」（『考古學論攷』第30冊、奈良県立橿原考古学研究所、2007年3月刊）
◯論文「八正寺と鬼会式―「鬼のお面箱取り」をめぐって―」（『久里』20号、神戸女子民俗学会、2007年4月刊）
◯論文「蓮花寺の「山の神の鬼面」のもつ意味」（『山岳修験』第43号、日本山岳修験学会、2009年3月刊）
◯論文「竹崎島の修正会鬼祭―満潮に二匹の鬼が呼びあうこと―」（『御影史学論集』第34号、御影史学研究会、2009年10月刊）
◯論文「愛知県国府宮の夜儺追神事」（『流通科学大学教養センター紀要』第１号、流通科学大学教養センター、2011年5月刊）
◯論文「兵庫県加東市の朝光寺の鬼踊り―修正会の祈りから八十八夜の祭りへ―」（『久里』29・30合併号、神戸女子民俗学会、2012年6月刊）
◯論文「修正会と鬼―播磨の八葉寺の修正会と『中右記』『兵範記』をめぐって―」（鶴崎裕雄編『地域文化の歴史を往く―古代・中世から近世へ―』和泉書院、2102年8月刊）
◯論文「兵庫県加西市住吉神社に伝わる鶏合せの神事」（『久里』32号、神戸女子民俗学会、2013年6月刊）
◯論文「播磨の鶴林寺の修正会と鬼追い―謡曲『吉道』との関わり―」（『御影史学論集』38号、御影史学研究会、2013年10月刊）
◯論文「香椎宮の鶏石神社と神功皇后と漢」（『久里』33号、神戸女子民俗学会、2014年1月刊）
◯論文「相撲節会の占手と童相撲」（『御影史学論集』42号、御影史学研究会、2017年10月刊）
◯論文「神社の祭りにおける相撲と子ども―神の相撲に関わる子どもの存在―」（『日本文化論と民俗学』創刊号、流通科学大学人間社会学部藤原研究室、2017年8月刊）

主な卒業論文のタイトル

〔2020年度卒業論文〕
・兵庫県の伝統的和紙の需要と未来
・環境保全と開発
・阿万地区 春のだんじり祭り ―だんじり唄の歴史―
・姫路の観光と歴史の魅力

〔2019年度卒業論文〕
・鉄道が与える地域の資源
・香川県の食文化
・和太鼓の楽器と自身の活動
・中国の東北地域における子供の習俗と生活
・中国の春節に行われた年中行事

〔2018年度卒業論文〕
・高度経済成長期の世の変化
・良いご縁をたぐりよせる出雲大社
・身近なブライダルの習俗と特色 ―それぞれの実体験から見えてきたもの―
・北条節句祭りの屋台今昔

趣味・特技

各地域へ出かけていき、色々なものを見て、新たな発見をすることが楽しみです。

所属

人間社会学部観光学科

所属学会

御影史学研究会、神戸女子民俗学会、日本民俗学会、藝能史研究会、まつり同好会、文化人類学会

専門分野

日本民俗学

選考方法

研究演習Ⅰ（日本文化論）を履修した学生に、引き続き、研究演習Ⅱ（日本文化論）を履修していただくことができます。

担当科目

日本文化論、地誌学、日本史A、日本史B、神戸の景観と歴史、教養特講Ⅰ（地理・歴史へのいざない）、教養特講Ⅱ（読書力）、教養総合(世界の中の日本)、基礎知識（歴史）、専門基礎演習、研究演習Ⅰ、研究演習Ⅱ、卒業研究

備考

研究演習の選択は、その後の自分（生き方）を大きく変えます。

評価方法

・出席を重視します。原則として毎時間、出席調査を実施します。欠席や遅刻状況も評価の中に含みます。
・レポートや研究発表の内容は当然ですが、研究演習に取り組む姿勢、発表者に対する質問（討論への参加度）など勘案して、評価を行います。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。地域の民俗（生活文化）に関わる現地調査等の機会をいただいています。そこで学んだ現地調査等の経験をもとに、研究演習の取り組み（調査報告書や卒業論文の作成）の中で、現地調査の説明内容として活用させていただいています。